

て、三四月ばかりの肌もちなりといひし、されどかく暑寒順なる地にすめるをもよるこばぬ事、たゞわれひとり去かるにはあらしか。

〔東遊記二〕寒氣指を落す

北國の人、餘りに寒氣をこらへ、雪を侵せば、血凍り、氣のめぐり絶えて、春に至り、少し暖氣を催す頃、足の指皆紫色に變じて、やがて腐り落る也、いかに療治を加れども、治しがたきものなり、余橘○
南も此病人を度々見たりしかども、やはり脱疽の種類なるべし、いかに寒氣甚しければとて、指の落る事やあらんと思ひすて、居たりしが、北地に嚴寒に遊びて、其まことなる事を知る、人のみならず、畜類までも指の落る事あり、出羽國秋田領の内大葛村の鶏、ひと年寒氣強かりし冬、庭に追放し置しに、其翌春に至り、鶏の足の指ことごとく腐り落ぬ、鶏の命は恙なくて今に存在すれども、足の指なければ枝に栖事ならず、只庭にのみうづくまり居る也、是も亦珍敷事といふべし、すべていかなる寒國といへども、指の落つるといふは足の指の事なり、手の指の落つるといふ事はあらず。

癰

〔倭名類聚抄三〕癰 漢書注云、癰音軍、和名阿加々利、手足圻裂也。

〔箋注倭名類聚抄二〕阿加々利見萬葉集略 中 原書趙充國傳注引文、顯無手足二字、按說文、駃足圻也、玉篇、癰足圻裂也。

〔瘡囊抄三〕ヒビアカバリトハ何ノ字ゾ、胼胝ト書テアカバリヒバト讀也、本文ニ、梨黑禹ハ胼胝也ト云々、又疹ノ字ヲモヒバトヨメバ、是モヤマヒニヤアカブリ、癰トヨム字也。

〔有林福田方十〕手足發癰ヒ、キル

此ハ皮厚クシテ、ソ、ロケク而圓スリ強クシテ、鹽ケンノ如ナル者也、鹽、右此ヲ取テ、胼ヒ、ノ上ニ塗テ、牛ニ舐ラスベシ、三過ニ不過シテ差ユ、又云、艾炷コユヲ以テ其上ヲ灸、三壯。